

複雑な症例における補綴治療の役割

補綴治療の役割は、感染を除去するために削ってから、それを被覆する作業というように捉えられることが多く、そのテクニックやマテリアルに注目しがちであるが、広範囲に及ぶ治療が必要になる患者に対応する際には、削る技術だけでなく、審美、機能、予知性などのデザインを考慮にいった治療計画を立案し、管理していくことも行わなければならない。また、連携治療を行う際には、治療を行うだけでなく、全体像を把握し、治療のコーディネーター的な役割を担う必要がある。今回の講演では、米国に帰国してから携わった症例を通して補綴治療の役割について確認し、デジタル時代における補綴治療の役割についてお伝えできればと思う。